経済循環と「サービス経済」の理論

批判的国民所得論の展開

寺田隆至

八朔社

経済循環と「サービス経済」の理論

批判的国民所得論の展開

寺田隆至

八朔社

[著者紹介]

寺田　隆至（てらだ　たかゆき）

青森県弘前市に生まれる。

1983年　弘前大学農学部農学科農業経済課程卒業

1992年　大阪市立大学大学院経営学研究科
　　後期博士課程単位取得退学
　　函館大学商学部専任講師
　　同助教授，同准教授（職名変更）を経て，

現　在　函館大学商学部教授

専　攻　産業構造論

経済循環と「サービス経済」の理論
——批判的国民所得論の展開——

2015年2月10日　第1刷発行

著　者　寺田隆至

発行者　片倉和夫

発行所　株式会社　八朔社（はっさくしゃ）
東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館内
Tel 03-3235-1553　Fax 03-3235-5910
E-mail : hassaku-sha@nifty.com

© 寺田隆至，2015

組版・閏月社　印刷／製本・シナノ印刷

ISBN 978-4-86014-071-7

目　次

はしがき

序　章　課題と方法 …… 11

第1章　再生産論と経済循環図——三部門四価値構成の再生産表式 …… 19

第1節　本章の課題 …… 19

第2節　単純再生産 …… 21

1　三部門四価値構成の単純再生産表式の考察　21

2　単純再生産（部門間均衡）の条件　26

3　「三面等価原則」の再把握——国民所得論との差異　31

第3節　拡大再生産 …… 36

1　三部門四価値構成の拡大再生産の出発表式と「三面等価原則」　36

2　拡大再生産の過程　41

3　拡大再生産の部門間均衡条件　45

第4節　経済循環図への転換 …… 48

1　単純再生産表式ベースの経済循環図　48

2　拡大再生産表式ベースの経済循環図　56

第2章　再生産論と「貯蓄＝投資」論 …… 67

第1節　本章の課題 …… 67

第2節　『資本論』第2部における「貯蓄＝投資」論 …… 69

第3節　三部門四価値構成の再生産表式と「貯蓄＝投資」論 …… 71

1 単純再生産と「貯蓄＝投資」論　71

2 拡大再生産と「貯蓄＝投資」論　74

3 ［補説］追加可変資本の貨幣還流問題　96

第４節　再生産論としての「貯蓄＝投資」論 …… 107

1 再生産論としての「貯蓄＝投資」論　107

2 国民所得論の「貯蓄＝投資」論との差異　110

3 考察結果への補足　116

第３章　「サービス」概念と「サービス取引」現象の分析 …… 121

第１節　本章の課題 …… 121

第２節　先行研究における「サービス」概念と「サービス部門」 …… 122

1 「有用的働き」説及び「有用効果」説と「サービス部門」　122

2 「労働」説と「サービス部門」　127

第３節　「サービス経済化」への問題設定と
分析視点としての「労賃形態の必然性論」 …… 131

1 「サービス取引」現象と本書の問題設定　131

2 分析視点としての　「労賃形態の必然性論」　133

第４節　「サービス取引」現象の商品交換論的分析 …… 138

1 「労働のサービス取引」現象の本質と発生根拠　138

2 「商品のサービス取引」現象の本質と発生根拠　145

3 小　括　150

4 ［補説］運輸業の理解　151

第５節　「非物質的生産部門としてのサービス部門」の設定 …… 156

第６節　「資本主義的サービス業」の試論 …… 162

第４章　「サービス部門」を含む再生産と経済循環図 …… 176

第１節　本章の課題 …… 176

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第2節 再生産表式への「サービス部門」の組み込みに基づく先行研究の成果と課題 …… 176

1 山田喜志夫氏の研究 176

2 川上則道氏の研究 183

3 [補説] 飯盛信男氏の批判と再生産論 191

4 小 括 194

第3節 「サービス部門」を含む単純再生産 …… 197

1 「サービス部門」を含む四部門四価値構成の単純再生産表式の考察 197

2 「サービス部門」の単純再生産の特徴と条件 205

3 [補説]「サービス部門」の単純再生産条件を満たさない表式例について 211

4 「サービス部門」を含む「三面等価原則」 215

5 「サービス部門」の部門内取引と「三面等価原則」 228

第4節 「サービス部門」を含む拡大再生産 …… 234

1 「サービス部門」を含む四部門四価値構成の拡大再生産の出発表式 234

2 「サービス部門」を含む拡大再生産の過程 237

3 小 括 247

第5節 経済循環図への転換 …… 248

1 「サービス部門」を含む単純再生産表式ベースの経済循環図——「サービス経済」の基本構造 248

2 「サービス部門」の部門内取引を示す経済循環図 252

3 「サービス部門」を含む拡大再生産表式ベースの経済循環図 253

第5章 「サービス部門」を含む再生産と「貯蓄=投資」論 …… 261

第1節 本章の課題 …… 261

第2節 「サービス部門」を含む単純再生産と「貯蓄=投資」論 …… 261

第3節　「サービス部門」を含む拡大再生産と「貯蓄＝投資」論 …… 265
1　「サービス部門」を含む拡大再生産　265
2　拡大再生産のその他の場合　276
第4節　総括と「サービス経済」への含意 …… 285

第6章　経済循環図の展開と「サービス経済」 …… 290
第1節　本章の課題 …… 290
第2節　国民所得論ベースの経済循環図（1）
——「サービス部門」の組み込み …… 290
第3節　「サービス部門」の内部分割の試みと「サービス経済」 …… 293
第4節　国民所得論ベースの経済循環図（2）
——「政府部門」の組み込み …… 296

終　章　総括・論点提起・展望 …… 300
第1節　総括——「サービス経済化」への基礎視点 …… 300
第2節　「サービス労働価値形成」説への論点提起 …… 309
第3節　展望——「再生産論の具体化」としての経済循環分析 …… 315
1　「再生産論の具体化」をめぐる方法的一課題　315
2　「再生産の条件」の成立と資本主義分析の一焦点　319
3　マテリアルフローの複雑性と個別産業分析の課題　322
4　おわりに　328

参考文献一覧
あとがき

装丁・髙須賀優

経済循環と「サービス経済」の理論

批判的国民所得論の展開

寺田隆至

八朔社

はしがき

本書は，今日では，全く過去の，特定の価値観に基づく経済学であるかのように扱われている観さえあるマルクスの経済学が持つ今日的妥当性・有効性を，現代の「サービス経済」についての以下のような一連の理論的把握の試みを通じて示そうとするものである。

すなわち，まず，マルクスがその主著『資本論』第２部第３篇のいわゆる再生産論で展開した諸議論と，今日のマクロ経済学の基本原則・基礎理論である「三面等価原則」及び「貯蓄＝投資」論との同一性と差異に光を当て，続いて，現代の経済において日常的な現象となっている「サービス取引」の本質を，『資本論』冒頭の商品論・商品交換論に基づいて明らかにする。そして，以上の考察で得た知見を基礎としての，「サービス部門」を組み込んだ経済循環・再生産過程の理論的考察によって，「サービス経済」という産業構造上の特徴を持つ現代経済の持続と発展の条件を明らかにするという試みである。

ところで，本書は，副題を，「批判的国民所得論の展開」としている。それは，以上のような試みによって同時に果たされるのが，物質的生産物と「サービス」を区別する，マルクス経済学の伝統的な労働価値論の立場に基づいて，現代の「サービス経済」における「国民所得」を再把握することだからである。そして，そこで得られるのは，「富とは何か？」という経済学の根本問題についての労働価値論の見地を，「サービス経済」の特徴を持つ現代経済の経済循環・再生産過程の把握に徹底させた知見であり，それを要約的に示したのが，本書第４章第５節及び第６章第３節に示したいくつかの経済循環図である。それは，端的に，「サービス経済」の特徴を持つ現代経済の基本構造の図式的表現である。

ところで，言うまでもなく，今日のマクロ経済学や国民経済計算（SNA）は，物質的生産物（＝「財貨」）と「サービス」を区別しない。したがって，その立場からは，本書が提示する上述のような経済循環図はあり得ないものである。しかしながら，両者を区別する必要性は，しばしば，日々の生活実感に基づく

我々の経済論議の中にも登場する。

記憶に新しいものとして一つだけ例をあげれば，2011年3月11日の東日本大震災の直後に議論となったプロ野球の開幕問題である。当初予定の3月25日に開幕すべきか，遅らせるべきかをめぐって，前者の判断を示したセ・リーグに対し，パ・リーグと選手会側が後者の判断を示して対立し，結果的には，4月12日のセ・パ両リーグ同時開幕となったが，そこにあったのは，被害状況の全容も摑めない段階で，しかも，電力需給逼迫への対策も実施される中で，膨大な電力を消費するナイターを含む当該スポーツ興行を行うことの社会的承認という問題であった。そして，電力を消費するのは，物質的生産を行う一般の多くの産業活動においても同様であるから，そこでの問題の核心は，物質的生産の産業と「サービス産業」との区別という問題に他ならなかった。

しかし，こうした問題を捉える枠組みは，上述したマクロ経済学を含む今日の主流の経済学にはない。そして，その枠組みを持つ経済学こそ，商品の価値(現象的には「価格」）の実体を，商品に対象化・物質化された社会的必要労働と捉える労働価値論に立脚し，そのことによって，経済を，人間と自然との物質代謝過程として，その必然性の次元で捉えるマルクスの経済学であるというのが本書の根底にある経済学理解である。

以上に述べたように，本書の中心的な課題は，マルクスの経済学，今日のマクロ経済学の基本原則・基礎理論としての「三面等価原則」及び「貯蓄＝投資」論，そして，「サービス経済」という三者の関係の中で設定されている。しかし，同時に，この中心的な課題を追究する中で，いわゆるマルクス経済学内部における次の三つの未解決の論争課題についても新たな知見を付け加えようとしている。

すなわち，(a) 非物質的生産労働としての「サービス労働」が価値を「形成」するのかしないのかという戦後長く行われてきた「サービス論争」，(b) 1922年の河上肇の指摘に始まる拡大再生産過程における追加可変資本の貨幣還流問題，(c) 1934年の山田盛太郎『日本資本主義分析』でとられた「再生産論の具体化」という資本主義分析の方法をめぐる一論点としての再生産表式と現実の産業統計における部門設定の不整合の問題である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いずれも長い論争史を持ちながらも未解決で，しかし，現代経済の把握において基本的な重要性を持つ課題である。本書の公刊を機に，これらの論争課題についても新たな論争が喚起されることを望んでいる。

とは言え，本書が最も期待するのは，これらの論争課題について検討する大前提として本書が追究している，上述した中心的な課題そのものについての議論の高まりである。端的に言って，本書は，経済循環・再生産過程の理論的考察，そして，そこに「サービス部門」を組み込んだ現代の「サービス経済」の理論的考察において，マルクスの経済学は，今日の主流の経済学がなし得ていない本質把握を可能にすると主張するものである。読者の忌憚のない批判を求めたい。

2014年1月

寺田　隆至

目　次

はしがき

序　章　課題と方法 …… 11

第1章　再生産論と経済循環図——三部門四価値構成の再生産表式 …… 19

第1節　本章の課題 …… 19

第2節　単純再生産 …… 21

1　三部門四価値構成の単純再生産表式の考察　21

2　単純再生産（部門間均衡）の条件　26

3　「三面等価原則」の再把握——国民所得論との差異　31

第3節　拡大再生産 …… 36

1　三部門四価値構成の拡大再生産の出発表式と「三面等価原則」　36

2　拡大再生産の過程　41

3　拡大再生産の部門間均衡条件　45

第4節　経済循環図への転換 …… 48

1　単純再生産表式ベースの経済循環図　48

2　拡大再生産表式ベースの経済循環図　56

第2章　再生産論と「貯蓄＝投資」論 …… 67

第1節　本章の課題 …… 67

第2節　『資本論』第2部における「貯蓄＝投資」論 …… 69

第3節　三部門四価値構成の再生産表式と「貯蓄＝投資」論 …… 71

1 単純再生産と「貯蓄＝投資」論　71

2 拡大再生産と「貯蓄＝投資」論　74

3 ［補説］追加可変資本の貨幣還流問題　96

第４節　再生産論としての「貯蓄＝投資」論 …… 107

1 再生産論としての「貯蓄＝投資」論　107

2 国民所得論の「貯蓄＝投資」論との差異　110

3 考察結果への補足　116

第３章　「サービス」概念と「サービス取引」現象の分析 …… 121

第１節　本章の課題 …… 121

第２節　先行研究における「サービス」概念と「サービス部門」 …… 122

1 「有用的働き」説及び「有用効果」説と「サービス部門」　122

2 「労働」説と「サービス部門」　127

第３節　「サービス経済化」への問題設定と
分析視点としての「労賃形態の必然性論」 …… 131

1 「サービス取引」現象と本書の問題設定　131

2 分析視点としての　「労賃形態の必然性論」　133

第４節　「サービス取引」現象の商品交換論的分析 …… 138

1 「労働のサービス取引」現象の本質と発生根拠　138

2 「商品のサービス取引」現象の本質と発生根拠　145

3 小　括　150

4 ［補説］運輸業の理解　151

第５節　「非物質的生産部門としてのサービス部門」の設定 …… 156

第６節　「資本主義的サービス業」の試論 …… 162

第４章　「サービス部門」を含む再生産と経済循環図 …… 176

第１節　本章の課題 …… 176

第2節 再生産表式への「サービス部門」の組み込みに基づく先行研究の成果と課題 …… 176

1 山田喜志夫氏の研究 176

2 川上則道氏の研究 183

3 [補説] 飯盛信男氏の批判と再生産論 191

4 小 括 194

第3節 「サービス部門」を含む単純再生産 …… 197

1 「サービス部門」を含む四部門四価値構成の単純再生産表式の考察 197

2 「サービス部門」の単純再生産の特徴と条件 205

3 [補説]「サービス部門」の単純再生産条件を満たさない表式例について 211

4 「サービス部門」を含む「三面等価原則」 215

5 「サービス部門」の部門内取引と「三面等価原則」 228

第4節 「サービス部門」を含む拡大再生産 …… 234

1 「サービス部門」を含む四部門四価値構成の拡大再生産の出発表式 234

2 「サービス部門」を含む拡大再生産の過程 237

3 小 括 247

第5節 経済循環図への転換 …… 248

1 「サービス部門」を含む単純再生産表式ベースの経済循環図——「サービス経済」の基本構造 248

2 「サービス部門」の部門内取引を示す経済循環図 252

3 「サービス部門」を含む拡大再生産表式ベースの経済循環図 253

第5章 「サービス部門」を含む再生産と「貯蓄=投資」論 …… 261

第1節 本章の課題 …… 261

第2節 「サービス部門」を含む単純再生産と「貯蓄=投資」論 …… 261

第3節　「サービス部門」を含む拡大再生産と「貯蓄＝投資」論 …… 265
1　「サービス部門」を含む拡大再生産　265
2　拡大再生産のその他の場合　276
第4節　総括と「サービス経済」への含意 …… 285

第6章　経済循環図の展開と「サービス経済」 …… 290
第1節　本章の課題 …… 290
第2節　国民所得論ベースの経済循環図（1）
——「サービス部門」の組み込み …… 290
第3節　「サービス部門」の内部分割の試みと「サービス経済」 …… 293
第4節　国民所得論ベースの経済循環図（2）
——「政府部門」の組み込み …… 296

終　章　総括・論点提起・展望 …… 300
第1節　総括——「サービス経済化」への基礎視点 …… 300
第2節　「サービス労働価値形成」説への論点提起 …… 309
第3節　展望——「再生産論の具体化」としての経済循環分析 …… 315
1　「再生産論の具体化」をめぐる方法的一課題　315
2　「再生産の条件」の成立と資本主義分析の一焦点　319
3　マテリアルフローの複雑性と個別産業分析の課題　322
4　おわりに　328

参考文献一覧
あとがき

装丁・髙須賀優

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com